



MMIX PROJECT 2026 アートレジデンス with

2026 年オープン予定！
鳴子2軒目のゲストハウス
narukoko



ギャラリーツアー
2月13日(金) 17:00～
アーティストトーク
2月22日(日) 15:00～

開発好明
荒木八雲
仲野かな
劉麗櫻
照井京
高瀬亘祐
門脇篤

妄想エンジン全開娘
アート・インクルージョン
ティムルカリンスキ
村上タカシ

2026 年 2月13日(金)～2月22日(日)
11:00～19:00 (初日 17:00～、最終日 17:00 まで)
こくみん共済 coop ホール／
スペース・ゼロ
ギャラリー・展示室
東京都渋谷区代々木 2-12-10-B1
入場無料・会期中無休



「もしも」に備え「もしも」を防ぎ
「もしも」に向き合う。



「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神のもとで、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

■主催：一般社団法人 MMIX Lab (媒体融合 Lab)
■共催：スペース・ゼロ
■問合せ：MMIX Lab (info@mmix.org)

MMIX PROJECT 2026 アートレジデンス with

東北・宮城での持続可能な地域再生につながるソーシャルツーリズム（社会観光）として、鳴子温泉や石巻でのアートレジデンスのプロジェクトをはじめ、「鳴子再生」をテーマにしたアートプロジェクトやアート・インクルージョンとのコラボ作品などを紹介します。



開発好明

観客参加型の美術作品を中心に、
2002 年に PS1 MOMA 「Dia del Mar/By the Sea」、
2004 年にヴェネチア・ビエンナーレ第 9 回国際建築展日本館、
2016 年に市原湖畔美術館にて個展「中 2 病」開催。
2024 年東京都現代美術館にて個展、「開発好明 ART IS LIVE—ひとり民主主義へようこそ」を開催。
また 20 年間毎年開催された 3 月 9 日「サンキューアートの日」の企画者としても知られる。



仲野かな

鳴子の土地や文化に介入するための態度、また距離を測るための手段として、私はユーモアを選択し、実践の方法には飯事を用いて制作を行った。鳴子から調布へと座標をずらし、依代・映画・飯事・コントといった複数の位相を行き来しながら、鳴子こけしを用いた日記的パフォーマンスを撮影した。
(ユーモアが必要なすべての土地、文化、そしてみなさん！)
(大丈夫、私についてきて！)

荒木八雲

斜面に位置する鳴子という街には山肌を撫でるように日々硫黄の香りが流れているおり、流れに導かれながら人々は観光を楽しむ。
今回のレジデンスでの展示においてはその観光という行為における「支点（視点）」に注目しながら作品制作を行った。
自分を支点にして街を見回す作品や、自ら支点を設定しあらゆる方向から注目する作品など、それらをを通して鳴子の魅力の側面が立ち現れることを願っている。



Liu Reo 劉麗櫻

私は、知覚と記憶の関係性を通して、世界がつながる感覚を表現している。異なる場所や時間に属する記憶が、風や光、匂いといった現在の感覚をきっかけに同時に立ち上がる瞬間に着目してきた。幼少期を中国で過ごし、その後日本で生活する中で得た経験から、記憶は過去に留まらず、現在の身体を通して更新され続けるものだと思えている。過去と現在が重なり、世界へと広がる感覚を立ち上げることが制作の出発点である。



高瀬巨祐

内的世界における廃墟的風景と生命的モチーフを交差させ、破壊と再構築の循環を可視化する。個人の記憶と地域の歴史が共振する場を創出し、断片化した感情の地層を新たな形象へと変換する表現を探究している。



妄想エンジン全開娘

楽しい時には楽しい色合いの、悲しい時には悲しい色合いの動物たちが、歌い踊るさまがいつでも実際に目の前に見えるという、まさに「妄想エンジン」を搭載した彼女はしかし、搭載しているだけでなく、常にアクセルを踏みっぱなしにしている。
本展ではオリジナルのこけし作品「こけしガールズ」をご紹介します。



ティムルカリニンスキ

ラトビアの首都リガの出身です。2013 年に日本へ移住しました。写真撮影や映像制作を行い、デザインや美術、日常生活の歴史に関わるプロジェクトにも取り組んでいます。また、熱心なナチュラリストでもあります。古い建物のリノベーションという実務に携わる一方で、周囲の自然観察も続けています。そのため、私の写真には石巻や鳴子温泉に暮らす生き物たちの姿が登場します。



照井京

木版画で顔をモチーフに制作し、心の中にある葛藤や感情の揺れを線として表現している。
彫りの強弱やかすれ

は、迷いや不安、言葉にならない気持ちの痕跡でもある。本作では、鳴子温泉という土地が抱える時間の重なりと、人が再生へ向かう過程を重ね、地域と静かに向き合う表現を試みた。



門脇篤

2005～08 年、アート×湯治をテーマに東鳴子温泉で開催された「GOTEN GOTEN アート湯治祭」。2006 年からは、毎年、アーティストが湯治体験をしながら制作や発表を行う「アート in 湯治」が行われました。本展では 20 年前に行われたこのレジデンスプロジェクトを振り返る展示を、当時の資料や関係者へのインタビューをもとに行います。



アート・インクルージョン

仙台市一番町にあるアートな福祉サービス事業所「アート・インクルージョン・ファクトリー」は、「毎日がアートレジデンス」。30 人ほどの表現者が日々、温泉パラダイスのような場で表現活動を行っています。自分らしく生きられる場で生まれた癒しを感じさせる作品やグッズなどを出展します。



村上タカシ

2009 年各種メディアを融合させ、アートと地域を結び創造的芸術活動を行う団体「MMIX Lab」を仙台で発足。震災以降、津波でねじ曲った公共物等を残し震災を後世に伝える「3.11 メモリアルプロジェクト」他の活動を展開。
近年は持続可能な社会観光の拠点として「コトのアート研究所」(石巻)や「NAAARU」(鳴子温泉)などを展開中